

ユネスコ無形文化遺産 登録記念

# 来訪神 サミット

## 2020 in Oga



2018年にユネスコ無形文化財に登録された全国10行事の「来訪神・仮面・仮装の神々」。  
行事に携わる方々が冬の男鹿に集まり、行事を紹介し、「しゃべり」ながら、これからの来訪神行事  
について考え、次の世代につないでいくことを目指します。



2020

# 2/7

金 13:00~16:35

司会 相場 詩織



### 男鹿市民文化会館大ホール

入場無料

◎主催/男鹿のナマハゲ保存継承協議会・男鹿市

◎後援/男鹿市教育委員会、来訪神行事保存・振興全国協議会、男鹿市菅江真澄研究会

本事業は令和元年度文化庁芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。

世界が認めた日本の「カミ」とは？



- 13:00 ● 開演
- 13:15 ● 講演・解説  
文化庁文化財第一課 主任文化財調査官  
小林 稔氏
- 14:00頃 ● シンポジウム「来訪神しゃべり」  
テーマ  
「来訪神行事を未来へつなぐ」
- 15:20頃 ● 来訪神行事実演
- 16:35 ● 閉演

|| 司会 相場 詩織 ||

テーマ

## 「来訪神行事を未来へつなぐ」

全国の来訪神行事保存会・自治体で携わっている皆さんが、ユネスコ無形文化遺産に登録された行事と保存継承への思いを語ります。

[コーディネーター] ・天野 荘平氏(男鹿市菅江真澄研究会長)

[パネリスト] ・文化庁 小林 稔氏

- ・甑島のトシドン保存会(鹿児島県薩摩川内市)
- ・男鹿のナマハゲ保存会(秋田県男鹿市)
- ・能登のアマメハギ・面様年頭保存会(石川県輪島市)
- ・秋吉地区アマメハギ保存会(石川県能登町)
- ・遊佐のアマハゲ保存会(山形県遊佐町)
- ・米川の水かぶり保存会(宮城県登米市)
- ・吉浜スネカ保存会(岩手県大船渡市)
- ・硫黄島の八朔太鼓踊り保存会(鹿児島県三島村)
- ・悪石島の盆踊り保存会(鹿児島県十島村)

## 来訪神行事紹介パネル展



来訪神行事は、独特の面や衣装などを身につけたものが「来訪神」となって、正月や小正月、節分などの暦の節目に家々を訪れるもの。新しい年を迎えるにあたって怠け者を戒めたり、家や人々に幸せや福をもたらしたりする行事は、全国各地で代々受け継がれています。日本の10行事が2018年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録。世界に誇る来訪神の魅力をパネル展示でご紹介します。

## 講演・解説

### 「来訪神：仮面・仮装の神々」

文化庁文化財第一課 主任文化財調査官  
小林 稔氏



## 来訪神行事実演

来訪神の謂われや姿形、行事の形態等は地域によって様々。

日本を代表する4つの来訪神行事が一堂に集い、実演されるこの機会をお見逃しなく。



### 能登のアマメハギ

|| 石川県 輪島市 ||

罽伊裏などで長く暖をとっている手足に火ダゴができます。これを地元では「アマメ」と呼び、何もしない怠惰の表れと解釈します。「アマメハギ」というネーミングは、そのアマメを剥ぎとることに由来。「怠惰を戒める」という意味が込められています。地域によっては「メンサマ」とも呼ばれることも。



### 遊佐のアマハゲ

|| 山形県 遊佐町 ||

罽伊裏にあたってばかりいると、手足に火ダゴができる場合。この火ダゴを方言で「ナマミ」「アマミ」と呼ぶことから「アマハゲ」とは「火ダゴを剥ぐ」という意味であるとされています。アマハゲは火ダゴを剥いで怠け心を戒め、怠惰を戒めると共に厄災を払い、無病息災をもたらす来訪神です。



### 米川の水かぶり

|| 宮城県 登米市 ||

裸体の男達が腰と肩に藁で作った「しめなわ」を巻き、「あたま」と「わかか」を頭から被り、足に草鞋を履き、顔に火の神様の印である龜の模様を塗ります。この水かぶり装束を身につけ、男達は神様の使いに化身。人々は男達が身に付けた「しめなわ」の藁を抜き取り、自家の火伏せのお守りにします。



### 吉浜のスネカ

|| 岩手県 大船渡市 ||

「スネカ」という呼び名は、狸の皮を剥ぐという意味の「スネカワタグリ」が転じたもの。一年に一度だけ忽然と現れては去っていくスネカは、豊かな恵みをもたらしつつも時折牙を剥く自然に対して、先人が抱いてきた素朴な畏敬の念を、生きる知恵として今に伝えています。

「男鹿のナマハゲ」も登場します。